

報道関係者各位

イグニッション・ポイント株式会社

2026年6月30日

イグニッション・ポイント、市場と研究開発を橋渡しし、 R&D部門の変革を支援するサービス「R&D X」を提供開始

イグニッション・ポイント株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：末宗 喬文、以下 イグニッション・ポイント）は、研究開発部門のAI・データ活用による変革（R&Dトランスフォーメーション）を支援する新サービス「R&D X」の提供を開始します。

■イグニッション・ポイントのR&Dトランスフォーメーション支援サービス「R&D X」

R&D Xは、「文献・特許調査や法規制対応、各種報告書の作成といったノンコア業務に時間を奪われ、研究者が本来の研究に集中できない」「過去の実験データやベテランの暗黙知が部門ごとにサイロ化し、組織の資産として活かせない」「技術シーズ起点の発想から抜け出せず、事業化の『死の谷』を越えられない」といった課題に対し、AIエージェントとナレッジ基盤を組み合わせ、研究開発のあり方を根本から変革する一気通貫型の支援サービスです。

近年、消費者ニーズの多様化やAIによる非連続な技術革新、規制の厳格化など、研究開発を取り巻く前提は激変しています。一方で多くの研究開発部門では、組織の縦割りやノンコア業務の負荷、技術偏重のテーマ起案といった構造的な課題が変革のボトルネックとなっています。

R&D Xは、研究者・知財部員を定型業務から解放してコア業務に集中させるとともに、市場・顧客ニーズと自社アセットを掛け合わせることで「勝ち筋」のあるテーマを生み出す、次世代型の研究開発への転換を支援します。

■R&Dはどのようにトランスフォーメーションしていくべきか？

研究開発を取り巻く外部環境が激変するなか、従来の延長線上のアプローチは通用しなくなりつつあります。求められるのは、サイロ化した組織の壁とノンコア業務から研究者を解放し、AI・データを武器に「自社アセット」と「メガトレンド」を掛け合わせた次世代型の研究開発への転換です。

第一に、部門ごとにブラックボックス化した実験データやベテランの暗黙知を組織横断で集約・AI-Ready化し、類似研究の重複や知見の死蔵を防ぐとともに、異分野データの掛け合わせによる新たなイノベーション創出やAI主導の高度な研究開発を可能にすること。

第二に、文献調査やデータ整理、法規制調査、報告書作成といった定型・反復業務をAIへ移管し、研究者を「良質な問いの構築」という本質的な価値創造に集中させること。

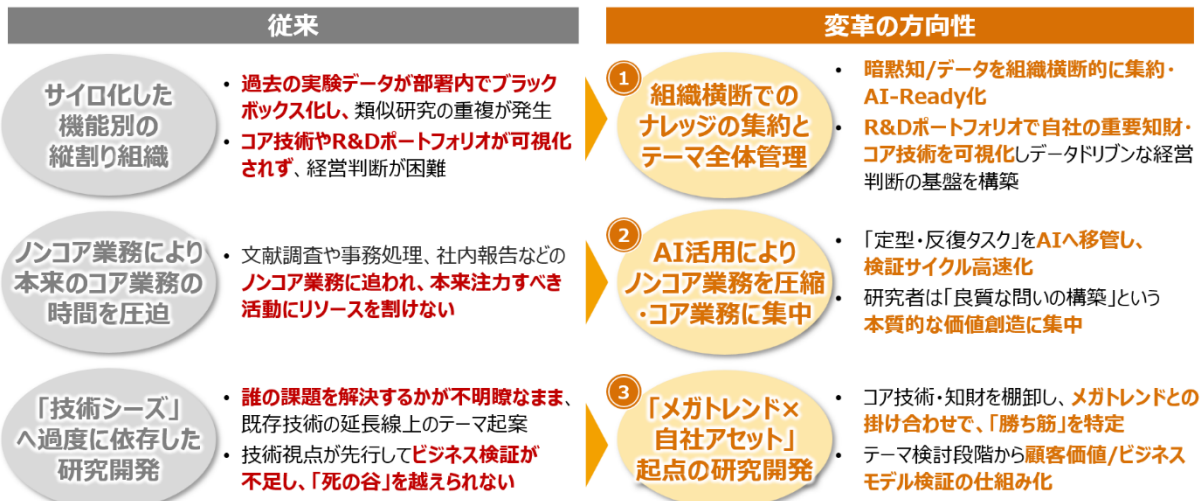
第三に、技術シーズ起点ではなく、市場ニーズに裏付けられた事業化確度の高いテーマを特定し、「死の谷」を越えること。

この3つの変革を、現場の日々の業務の中に組み込む形で仕組みとして実装することが鍵となります。

R&Dはどのようにトランスフォーメーションしていくべきか？



サイロ化された組織の壁とノンコア業務から研究者を解放し、AI・データを武器に「自社アセット」と「メガトレンド」を掛け合わせた次世代型研究開発業務へのトランスフォーメーションが急務



■R&D Xの特長：業務・管理・ガバナンスの3層で研究開発を変革

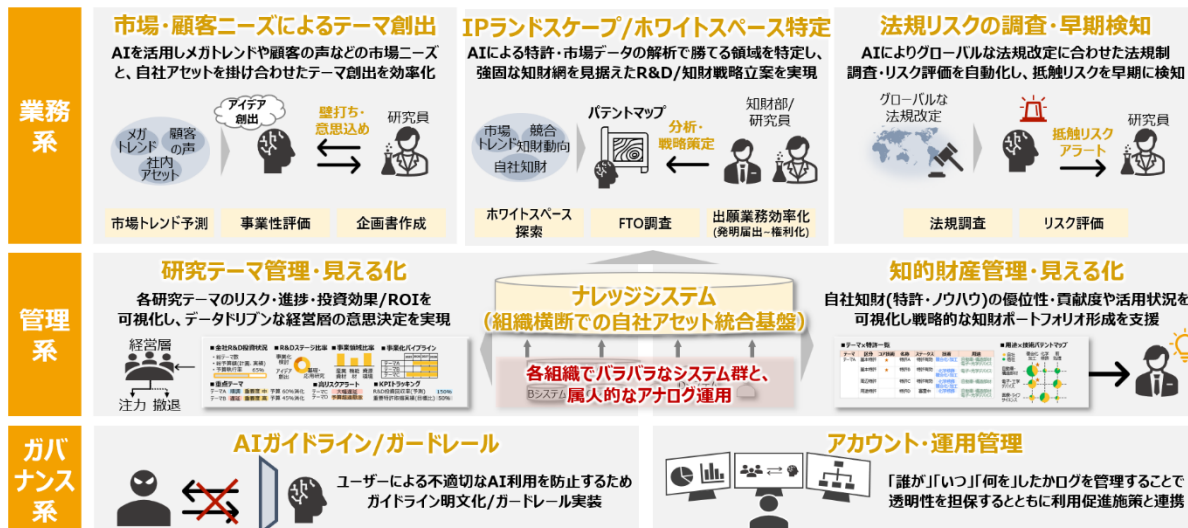
「R&D X」の最大の特徴は、研究開発の現場に深く寄り添い、市場・顧客ニーズと日々の研究開発業務を「橋渡し」する点にあります。弊社ならではの研究開発業務のAIエージェント開発の「型」と深い業務理解をもとに、全体最適を見据えたグランドデザインと現場起点のスタートを両立します。

「仕様は満たしているが現場で使われない」といった形骸化を防ぎ、研究者・知財部員の業務に即した実効性の高い仕組みを、業務・管理・ガバナンスの3層で網羅的かつ早期に実装します。

市場・顧客ニーズを如何に研究開発業務へ橋渡しするか？（コンセプト）



業務・管理・ガバナンスの3層でAIとナレッジ基盤を活用し、市場・顧客ニーズと研究開発業務の橋渡しを実現



業務：ノンコア業務を効率化し、コア業務を高度化

市場トレンド探索やテーマ創出、法規制調査、発明届出書の作成、拒絶理由通知への中間処理対応などの業務を、ベテランの思考プロセス（暗黙知）を組み込んだAIエージェントが支援。

文献・特許調査や報告書作成といった負荷の高い定型業務を圧縮し、研究者・知財部員を本来注力すべき新規性・高付加価値な研究活動へと解放します。

さらに、市場ニーズと自社アセットの掛け合わせによるテーマ創出をはじめ、AIによる法規制リスク調査・評価の自動化や、IPランドスケープによる勝ち筋のあるホワイトスペースの探索を通じて、コア業務そのものの高度化も実現します。

管理：研究テーマと知財ポートフォリオを可視化し、データドリブンな意思決定を実現

属人的な管理・報告により、ブラックボックス化しがちな研究テーマの進捗・リスク・投資対効果や、自社のコア技術・特許群をポートフォリオとして可視化。マネジメント層による機動的なリソース配分や、競合未着手の「ホワイトスペース」を捉えた勝てるR&D戦略の立案を支援します。

ガバナンス：R&D特有のセキュリティ要件を満たすAI活用基盤を構築

共同研究先とのNDA締結や特許出願前の秘匿性確保など、研究開発に特有の機密性とオープンなナレッジ共有の両立は容易ではありません。R&D Xは、適切なアクセス権限管理やAI利用のガードレールを整備し、研究者が安心してAIを活用できる基盤・運用体制を構築します。

【支援実績（一部）】

- ・大手化学メーカー：R&D戦略策定業務におけるAIエージェント開発支援
- ・大手素材メーカー：研究テーマ創出・事業性評価におけるAIエージェント開発支援
- ・大手素材メーカー：発明届出書作成・中間処理におけるAIエージェント導入支援
- ・大手素材メーカー：特許ポートフォリオの見える化・ポジショニング分析支援

■ イグニッション・ポイント株式会社について

イグニッション・ポイントは、クライアントのイノベーションや変革を支援するとともに、自ら事業創出・共創を行うイノベーションファームです。イノベーションとテクノロジーで日本の再興に貢献するため、新事業創出やDX/AI支援を強みに、コンサルティング、イノベーション、インバーストメントの事業を展開しています。

所在地：東京都渋谷区東1-32-12 渋谷プロパティタワー8F

設立：2014年6月4日

代表者：末宗 喬文

事業内容：

コンサルティング事業：新規事業やDXを中心としたコンサルティング

イノベーション事業：企業・アカデミア・行政と連携した新事業創発

インバーストメント事業：スタートアップ投資と投資先の成長支援

URL：<https://www.ignitionpoint-inc.com>

Press Release



【本件に関するお問い合わせ先】

イグニッション・ポイント株式会社 担当：久保川・西川・北（良）

Email : info@ignitionpoint-inc.com